

「羽包み(はくくみ)」

第19号 令和2年12月1日発行

自立援助ホーム「湘南つばさの家」

〒253-0022 神奈川県茅ヶ崎市松浪 1-12-17

TEL・FAX 0467-58-6260 shonan-tsubasa@marble.ocn.ne.jp

〔郵便局での振込みは〕 ゆうちょ銀行 振替口座 00200-5-81277 自立援助ホーム 湘南つばさの家

〔銀行からの振込みは〕 ゆうちょ銀行 店名：029 (ゼロニキュウ) 当座 0081277 自立援助ホーム 湘南つばさの家

新しい時代で見つめるもの

ホーム長 前川 礼彦

去年の12月に新型コロナウイルスが発生してから1年。その対策は全世界での共通した課題となり、外出時のマスクや消毒、三密を避けたソーシャルディスタンスなど、新しい生活様式はどことなく人との交わりを躊躇させ、在宅で過ごす事も多くなり、人との距離感を意識せざるを得ない年月になりました。

お陰様で当ホームでは発熱する入居者が出る度に緊張も走りましたが、新型コロナウイルスに罹患する事なく本日まで過ごす事が出来ました。改めまして支援者の皆様には多くのご心配や様々な物品・金銭支援等ご支援を賜りまして、誠に有難うございました。この様な時代だからこそ、人が人を思いやり、人の為に動く行動の一つひとつが心に沁みます。

私は今、自分の心を見つめています。それは日々の暮らしを通し、人との人間関係の中で生まれる「心の感情」についてです。人とのやり取りを通して瞬時に湧き上がる心の感情は、周りや協調する為に、仕事を進める為に多くは伏せながら人との繋がりの中生きていきます。しかし人生の中で、心の感情というものには誤魔化しが利きません。その行動は誰の為に行動なのか、その言葉は誰の為に言葉か、打算や保身の為に計算された言動ではないか。他人や仕事上で体裁を整え誤魔化せたとしても、自分の心は騙せない。人との交わりの中で生まれる心の感情は、今の自身の心の在り方が表れているという事を忘れてはなりません。人との関りの中で相手を許せず、心の中でいつも苛立ちを覚えていないか。相手が期待通りにならないからと傲慢な思いが心を支配していないか。瞬時に湧き上がる心の感情を見つめたとき、自分の心の至らなさや浅ましさに嫌気が差す事も少なくありません。

心を磨くとは何か。決して目に見える行動ではない、心の内面の在り様ではないか。長い人生だからこそ、その時々で生まれる毎日の心の感情を、よく味わう必要があるのではないか。他者に見えている表面的な姿では分からない、自分自身の本当の姿が心には見えているであろう。装いのない自分の心を磨き、「人間性を高める」とはどういう事を考えて人生を歩んでいきたいものです。

湘南つばさの家も開設して15年目になりました。計39人の少年たちとの暮らしと、ホームを守ってくれたスタッフ、多くの応援して下さいました支援者の皆様との出逢い。そこには「人と人との温かい交わり」がありました。皆様に深く感謝を申し上げます。



ボランティア紹介

つばさの家には、素敵なボランティアの方々がたくさんいらっしゃいます。高栖さんは近所に住んでいる主婦の方です。週に1回夕食作りに来て頂いています。おおらかで明るく、笑い声にスタッフも子どもたちも皆、癒されています。何かお話しすると「いいのよ。気にしないで。」と言って下さることが多く、そのお気持ちに何度助けられたことか分かりません。近所なので、OB含め子どもたちと道やスーパーで会うようで、声をかけて下さいます。アパート暮らしをしている子にとって、つばさ以外で誰かに声をかけられることはとても嬉しく「高栖さんに会ったよ」と言ってきました。今回、ご寄稿頂き、ありがとうございました。

「つばさの食事作り」

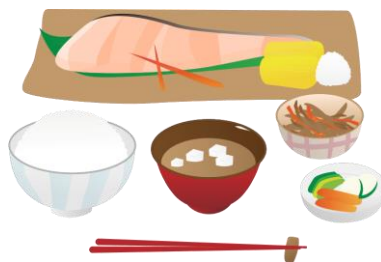
高栖 恵子

私がつばさの家のことを知ったのは10年ほど前です。確か、この通信を回覧で見たのだと思います。

当時、我が家は息子が不登校、娘も精神的に不安定な時期で、つばさの家の自立支援という言葉に反応して興味を持っていたのだと思います。あれから10年たち、息子も就職して今は一人暮らしをして生活を楽しんでいます。娘も就職しそれぞれ自立しています。そんな時期に、またつばさの家のことを回覧で見ることがあり、その中で夕飯作りのボランティアを募集しているとのこと。思い切って2019年の年末に連絡してみました。お会いした前川さんご夫婦の素晴らしさに惹かれてボランティアに参加させてもらうことにしました。

今年1月から始めて、当初は一緒に夕飯を食べたりしていましたが、コロナが流行し、私は訪問ヘルパーの仕事をしているので、会食を避けて、夕飯作りだけに今はしています。普段はヘルパーで高齢者の食事をつくっていますが、ここは自分の子どもたちより若い男の子達。作る量や味付けも、仕事での食事作りとは全く違うものでした。

でも、スタッフやつばさの子どもたちと会話しながらの夕飯作りはとても楽しく、こんな中高年の私を受け入れてくれることに感謝しています。ここで、得るものは多く、私の心地よい居場所ともなっていてこれからも続けていければいいなと思っています。



※つばさの家では通信を回覧板で地域の方にも読んで頂いております。反響もあり、何より地域の方にとって頂くことが大切だと思っております。



つばさインタビュー 退居者(OB)の声

つばさの家も今年で15年目となり、開設から今年まで39人の少年たちと関わってきました。つばさの家を出たあと、社会で活躍している退居者が沢山います。今回は退居者の1人がインタビューに応じてくれました。つばさの家との関わり、将来の想いを聞きました。つばさの家の退居者の生の声をお伝えできたらと思います。

Q.つばさを出た後の経緯を教えてください

つばさに居た時に認知症の介護の仕事を始めました。18歳から始め、キャリア年数は8年程になります。一度働く会社を変えましたが、現在も同じ仕事を継続しています。仕事を続けているうちに、施設長を任されるようになり、今に至ります。

Q.退居してから、仕事はどうでしたか？

最初に勤めた職場には、重度の認知症の利用者さんが多くて大変な部分がありました。職場を変え、今は施設長を担ってから3年目になります。施設長を担ってからは、人間関係が難しかったです。介護業界は女性のスタッフが多いので、女性社会になりやすいです。そのため、施設長1年目は人間関係の面で苦労しました。でも、「嫌だから」という理由で辞めることがもったいなく、変わるまでやってみたいと思いました。まず信頼を得るために、なるべくスタッフと一緒に視線を合わせ、自分から声を掛けて気にかけていくことを心がけました。スタッフが辞めてしまうこともあったけど、一つ一つを積み重ねていくうちに、今ではとても落ち着いた環境となりました。

Q.つばさの家について、どんな想いがありますか？

つばさの家では、とても勉強になりました。つばさの家で過ごす時、社会人を目指さなければなりません。仕事をしてお金を稼いで自立していくことがメインになります。だから、自立度がとても上がります。つばさの家でちゃんと取り組みれば、後々のためになるし、退居してからありがたみが分かります。自分自身も、今もつばさの家のスタッフには相談に乗ってもらっています。

Q.後輩に向けて伝えたいことは何ですか？

つばさの家での生活を大切にしてほしいです。ここだけの生活とは思ってほしくなく、つばさの家にいる間に何かをつかんで欲しいです。例えば、人とのつながりを大切にしてほしいです。社会に出てからアドバイスをしてくれる人は中々いません。また、この先何をやりたいか目標を立てた方がいいです。自分のやりたいことを見つけたいです。やりたいことが見つからない人は、とりあえず今の仕事を頑張ってみるといいと思います。一生懸命できれば、面白味も見つかります。

Q.将来の夢ややりたい自分がありますか？

現在は1店舗のみの責任者を担っていますが、将来は3店舗のマネ



ージャーをやりたいです。来年度から2店舗が開く予定で、ようやく現実が夢に近づいてきました。30歳までには3店舗マネージャーの夢を叶えたいです。最終的には自分で独立して経営したいです。今の会社の2店舗目で手応えを感じたら、3店舗目が勝負となります。3店舗目もうまくいった後に、独立を考えています。

「こういう人になりたい」と思われる人になりたいです。21歳の時に楽天の三木谷社長に会う機会があり、話すことができました。自分はその時にこんな人になりたいと思いました。三木谷社長は尊敬されるから、周りの人も助けようとしてきてくれて、楽天も大きい会社になったのだと感じました。そんな尊敬されるような人間になりたいです。

彼がつばさの家を退居してから約7年半。立派に社会で活躍しています。彼もまた、周りの人に支えられつつ、自らも諦めずに夢に向かっていました。その熱い想いを持ち続け、夢に向けて頑張る姿には学ばせてもらえます。時には相談に乗りつつ、これからも見守り続けたいです。今回はインタビューに応じてくれてありがとうございます！（野田）



ホームの様子

※WEB上の為、省略します。

「勤めた10年を振り返って」

塚原 健太

入職したのは2011年、私が26歳で東日本大震災があった年です。この当時、私は前職(学童保育)を辞めて福祉の専門学校を卒業したものの、就活をするでも無くバーテンダーをやっていました。そんなとき、つばさの求人を見つけ応募しました。面接のときはスーツこそ着ていたものの、茶髪で非常にチャラチャラしていました。いま考えるとよく雇ってもらえたものです…。そんな自分がつばさに入り何ができるわけも無く、日々困惑することばかりでした。3~5年目くらいは、それなりに楽しんで仕事をしていたような気がします。それでも、しんどい部分はあり、5年目を迎えたあたりで一度転職をしました。と言っても、情けない話ですが諸々あって2か月程度でつばさへ戻ってきてしまいました。我ながらつばさにいる彼らと何も変わらないなと思ってしまう。

出戻りの自分を前川さん達、子ども達は迎え入れてくれました。恐らくここが大きく変わっていくターニングポイントになったのだらうと思います。復帰後から外部の児童養護施設関係者との会議に参加する仕事を任されたのも大きな要素でした。つばさの中だけにいたのでは分からないこと、至らなかった考えを知ることができました。

こうした日々の中で、自身の変化を大きく促してくれる子がつばさに入ってきました。彼は色々と課題を抱えた子でした。何度もぶつかり、それでも同じことを繰り返し、そんな彼との関わりの中で、彼の行く末を考えるようになりました。「この子はどうやって生きていくのだろうか?」、「10年後、20年後に何をしているのだろうか?」、「彼にとっての幸せとは何だろうか?」。そんなことを考えるうちに、対人援助職とは何なのか、自立援助ホームとは何なのかということを考え、深めている自分がいました。

出来ることが増え、考え方も広がりましたが、彼らと向き合えば向き合う程、自分自身と向き合うことも増えました。「自分は本当に彼らのことを思っているのか、自分のしていることは自分勝手なエゴではないのか、正しい選択をしたのだろうか」と悩みは尽きません(ついでに胃痛も…)。

日々こうした葛藤の中にいますが、これまで彼らの人生に関わらせてもらい、たくさんの喜びも与えてもらいました。色々と課題を抱えた彼らが結婚し父親になったり、責任ある立場になったり。些細なことでも一緒に笑いあい、彼らに少しでも楽しい思い出をと行動した結果、私自身の楽しい思い出にもなりました。そして、そんな思い出を何年後かに彼らと懐かしく語るときほど楽しいことはありません。

こうして、自分が誰かの人生の一部になれている、一部に加えてもらったというのは、とても得難いものであり、この仕事をして一番よかったと思える瞬間です。これからの後進のスタッフにもそう思ってもらえたらと思います。仕事だから福祉だから以前に人としての大切なことなのではないかとも思います。

これからも、彼らも含む、自身に関わって下さるすべての人達に感謝を抱き、皆が笑って毎日を送ることができるよう、自分に出来る努力を重ねていきたいと思っています。



「自立援助ホームのあり方と社会的養育の展望」



令和2年6月に「地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律案（改正社会福祉法）」が国会で成立した事を受け、地域共生社会の実現に向けて国は動き始めています。これは従来の縦割り制度から、一人ひとりの複雑化・複合化されたニーズに合わせた「包括的な福祉サービス」を提供していく制度に転換していく事であります。SDGs（エスディージーズ：持続可能な開発目標）にも掲げられた「誰一人取り残さない」という理念、そして国が数年前に掲げた「我が事・丸ごと」から地域共生社会を目指し、各相談機関は「断らない相談支援」を目標に、従来の社会資源の機能を再編しようとしています。地域共生社会を目指した改正社会福祉法は具体的に年齢や相談種別（属性）を超えて受け止める「市町村での包括的な支援体制の構築」や、訪問支援も含めて継続的に繋がる伴走支援、従来の制度では対応しきれなかった狭間の支援（本人のニーズと地域の資源との間を取り持つ支援）で本人に寄り添いながら社会の繋がりを取り戻していく事を目指しています。その様な地域作りを目指し、これらを一体的に実施する「重層的支援体制の整備」を行おうとしています。

昨年策定された都道府県社会的養育推進計画においては、施設養護より家庭養護、家庭的養護への転換が数値目標を含めて掲げられ、前述した地域共生社会の観点において施設養護は地域にとってどうあるべきかを近い将来に向けて具体的に考えなくてはなりません。地域からしたら現実的に施設はどこか特別で敷居が高く、児童相談所へも気軽に足を運べるものではありません。子育てや家庭の困り事で公的な社会資源を頼るならば、せめて市役所でしょうが、施設こそ地域に点在する「子育て支援拠点」になり得るかもしれません。地域に向けては「児童家庭支援センター」での地域の子育て相談、短期間子どもを預かる「ショートステイ」や夕方から夜に預かる「トワイライトステイ」がありますが、市民からしたら普段困り事がなくても気軽に立ち寄れる「居場所」が必要かもしれません。例えば児童養護施設に併設したカフェやサロンがあるならば、日常的に立ち寄れて、いざ家庭や子育てでの困り事が出てきた際にはその場で相談できる様な、そんな気軽な相談の場があれば理想的であるかもしれません。

では、自立援助ホームについてはどうか。自立援助ホームは思春期青年期の生活支援、就労支援を行ってきました。元々温かい暮らしの場で丁寧な生活支援を行い、ホーム退居後も期間を問わず関わり続けることを大切に、伴走支援の草分け的存在として、ライフステージに合わせた「生きることへの包括的支援」を実践してきました。社会的養護児童は、施設や児童相談所だけでなく、地域の中で社会資源に繋がる事が出来なかった生き辛さを抱えた青年たちが潜在的に多数存在していると言われ、従来の制度では殆ど皆無とされた青少年福祉としての社会資源として益々重要な位置づけになると言われています。差し当たり従来の児童相談所からの入居だけでなく、市町村の役所から入居する枠組みを作る事で、地域からのアクセスが増えること、平成29年度から施行された社会的養護自立支援事業において、支援を必要とする若者は22歳年度末まで対象となりましたが、この事業がどの自治体でも行われ、限定された各条件が緩和され、施設養護を受けていなくても困難があれば同年齢まで支援を受けられる柔軟性が求められています。

自立援助ホームには、児童福祉において積み残された課題が山積しています。生きる事に困難を抱えたとき、一人きりで寂しさを抱えたとき、いつまでも「あなたのことは忘れてないよ」と気にかけて共に悩む存在であること、自立援助ホームが十代後半の自立準備の場だけでなく、人生を通してその人の心にあり続ける「心の財産」として存在している事を伝えたい。（前川）

ご支援ありがとうございました

ご支援頂いた方の氏名（イニシアル）及び品名（令和1年11月より令和2年10月末まで）

ボランティア (16名)	NS様、WC様、ST様、ST様、SH様、HK様、HK様、OM様、TK様、SM様、SR様、NK様、KY様、茅ヶ崎地区BBS会3名
物品寄付 (129名)	M様(衣類)、ZA様(みかん・素麺)、KK様(洗剤)、TY様(商品)、SS様(衣類)、MT様(衣類・トイレットペーパー)、U様(衣類・雑貨)、GC様(ハム)、YH様(食器)、KJ様(野菜・メロン)、T夫妻様(みかん)、IM様(みかん)、NM様(本・お菓子)、K夫妻様(お米・野菜)、IY様(洗剤・食品・お菓子)、MN様(トイレットペーパー・マスク他)、TH様(野菜)、EY様(乾)、YM様(野菜・みかん)、KH様(洗剤・タオル)、UM様(りんご・お肉)、KY様(布団)、HM様(靴下・お菓子・朝顔)、IS様(食品)、KI様(ハム・アイス)、FM様(昆布)、F夫妻様(ラーメン)、OM様(お茶)、I夫妻様(商品券)、N様(食品)、Y様(りんご)、KJ様(商品券)、A夫妻様(みかん・素麺)、HK様(食品)、KK様(衣類・食品)、HJ様(タオル・乾麺)、TM様(切手)、TI様(みかん)、MH様(食品・日用品)、I夫妻様(落花生)、匿名様(服・食器)、YI様(食品)、NM様(フランス)、KK様(リース)、KT様(食品・宝くじ)、GM様(スーツ・洗剤)、YC様(お菓子)、NH様(入浴剤・食品)、SS様(お菓子)、T様(かん)、HK様(お菓子・梅干し)、KS様(タオル)、SH様(おせち)、KT様(サラダ油)、A夫妻様(切手)、AK様(お菓子)、NT様(食品)、MK様(食品)、I様(おそば)、S様(たい焼)、I様(雑貨)、H様(食品)、IS様(お米)、TK様(ジュース・食品)、MT様(食品・日用品)、SK様(いよかん)、DM様(チョコレート・ブルー)、I様(入浴剤)、ST様(お菓子)、US様(タオル)、YW様(洗剤)、KM様(お菓子)、H様(衣類)、H様(お菓子)、匿名様(食品)、UR様(雑貨・布団)、Y様(非常食)、KY様(お米・お菓子)、TK様(野菜・お菓子)、S様(いちご・ジャム)、UK様(DVD・佃煮)、H様(家具)、OH様(食品)、NA様(食品・お米)、N夫妻様(果物・マスク・トイレットペーパー)、YD様(お菓子)、H様(サラダ油)、S様(おしるこ)、T様(ベークール・サラダ油)、GM様(野菜ジュース)、NT様(マスク・入浴剤・お茶)、OT様(食品)、K様(衣類)、U様(野菜・パン)、A様(アイス)、YB様(果物)、IK様(食品)、SM様(さくらんぼ)、K様(植木・家電・食品)、YS様(マスク・本・お米)、T様(お米・お菓子)、MR様(洗剤・食品)、OT様(食品)、KK様(トイレットペーパー・食品)、W様(お菓子)、MK様(マスク・日用品)、OY様(食品)、KM様(絵葉書)、K様(マスク)、MH様(スイカ)、AM様(紅茶)、H夫妻様(食品)、AK様(食品)、FM様(スイカ)、I夫妻様(梨)、F夫妻様(食品)、TY様(日用品)、MD様(洋菓子)、SA様(日用品)、H様(衣類)、A様(食品・雑貨)、S様(玄米・食品)、N様(お米)、NC様(玄米)、KF様(スーツ)、ST様(パン)、A様(非常食)、SE様(切手)
寄付金 (73名) ※定期 寄付含む	HA様、UM様、FM様、RY様、KK様、YI様、KS様、KS様、UR様、SE様、KT様、T様、HM様、Y様、YM様、KS様、F夫妻様、NR様、N様、OY様、NK様、OM様、NH様、IH様、IM様、MN様、NA様、KK様、MK様、MM様、KM様、SM様、WY様、IA様、YH様、US様、YC様、NC様、SA様、MT様、KI様、MY様、YM様、OI様、KN様、HY様、SM様、TR様、SA様、FM様、D夫妻様、AK様、TI様、MK様、FT様、NT様、AK様、NC様、M夫妻様、GM様、AY様、HS様、NN様、FM様、G夫妻様、YJ様、NJ様、FS様、F夫妻様、IR様、SM様、NC様、I夫妻様
定期寄付 <物品> (19名)	K夫妻様(お米・卵)、T夫妻様(おまんじゅう・果物等)、SM様(食品・衣類)、Y夫妻様(お米・果物・日用品)、HK様(洗剤・食材・雑貨)、CA様(有機野菜)、NS様(食品・日用品)、WC様(お菓子・果物)、IT様(ごま油)、I様(食品・日用品)、IK様(野菜・お菓子)、TY様(果物・野菜)、AS様(文房具・食品・切手)、ST様(花・野菜)、OY様(野菜・お菓子)、OY様(天美卵・ウィンナー・りんご他)、MM様(果物・練もの・お餅)、F夫妻様(お米・食品・カーテン)、K様(日用品・食品)、
団体から <金銭、 物品> (49団体)	茅ヶ崎オーシャンライオンズクラブ様、イオン様、ダイエー藤沢店様、ダズンジャパソクアテモク様、コストコ様、We21ジャパン寒川様、WE21ジャパンにのみや様、パンドカム様、片瀬にここ広場様、カズ様、おてらおやつクラブ様、カトリック藤沢教会、フードバンクかながわ様、わたぼうし様、セカンドハーベストジャパン様、カープ様、茅ヶ崎地区更生保護女性会様、松浪1丁目自治会様、浜須賀自治会様、松浪地区社会福祉協議会様、影向寺様、元気フォーラム様、サ建設計画、未来文庫様、熊澤商店様、喜楽会様、湘南生活クラブ生協様、生活クラブ相武台テポ様、生協ライフタウンテポ様、バックアップ 藤沢様、サウスイスト金が谷様、ふらっとパル様、タイガーマスク基金様、厚生労働省様、RAKUSOU様、神奈川県様、吉野家様、真如苑様、ビーンズスタイル様、ベル様、松浪地区コミュニティセンター様、神奈川県中央児童相談所様、さざなみ様、横浜市社会福祉協議会様、神奈川県職員有志様、藤沢地区更生保護女性会様、田島電機様、パリエー湘南様、白十字会林間学校様（順不同）

支援の継続をお願いします!

いつもご支援ありがとうございます。自立を目指す少年たちを支えていくためには、皆様からのご支援の継続が欠かせません。ご支援をして下さる方は当支援会の会員（無料）として、今後もつばさの家の活動報告をさせていただきます。

物品のご支援

食料のご支援は、いつも少年たちの食事に使わせていただき、活力になっています。現在は「果物」、「サラダ油」、「鶏ガラスープの素」が特に必要です。カレーやラーメン、スパゲティにかけるソースなどの「レトルト食品」は、OB への支援にも使わせて頂いています。朝食のおにぎりに使う「ふりかけ」、「ジュース」、「パン」、「ウィンナー」も重宝しています。野菜やお肉、冷凍食品、納豆や卵などの日配品のご支援は大変助かります。定期的な食料のご支援も募集しています。

生活用品は、「トイレットペーパー」、「キッチンペーパー」、「柔軟剤」が切らしがちです。また、最近では新型コロナウイルス対策のため、「アルコールスプレー」、「ペーパータオル」がご家庭で余ってしまいましたら、ご支援をお願いいたします。感染防止のため催しも中々行えず、家で過ごす日々が続いています。屋内でも余暇を過ごせる「ボードゲーム」、「テーブルゲーム」、「TV ゲーム」等がありますと嬉しいです。

経済的なご支援

ホームの足らざる運営費としてのご寄付は大変ありがたいです。（振り込み口座は表紙に記載しています。寄付控除の領収書も発行できます。）来春、4年間の専門学校に進学する青年がいます。長い年月の学費と生活費を補助しながら支えていきます。また今年はこのご時世で例年の旅行を中止しましたが、少年達の余暇を充実させる為に年中行事や少人数の催し等、出来る事を模索していきたいと思えます。

<羽包みのスポンサーを募集します！>

本通信は毎回 1,000 部を印刷して広報させて頂いていますが、印刷費が約 35,000 円かかっています。先輩ホームに倣って当ホームでも印刷費をご支援して下さる方、団体様、企業様を募集しております。何かの記念に、節目に、お祝いに、スポンサーになって下さった方には紙面の一部にて広報をさせていただきます。（ご寄付の際、お申し出下さい）

ボランティア、求人募集

現在、食事作りのボランティア（月 1 回～）、またはパートの方（週 1 回～）を募集しています。主に夕方からの 3、4 時間程度で、夜の時間が難しい方は応相談致します。また、事務経理をお手伝いして下さる方、宿直を行える方、大学生（または院生）で自立支援の現場を勉強されたい方、大歓迎です。正式でなくてもお気軽にお問い合わせ下さい。

（編集後記）

元々書きものは好きな方なのですが、書き上げたものをチェックされ指摘を頂くと、様々なことに気が付かされます。今号も皆様のお力添えを頂きつつ、試行錯誤で作成致しました。ありがとうございました。ご一読くだされば幸いです。